



9月11日、谷山哲浩理事長に、「いたる訪問看護ステーション」の荒居看護師、細谷看護師の両名が同行し、社会福祉法人にて職員研修の講演を行いました



福祉と介護、福祉と医療のたすき掛け

社会福祉法人いたるセンター 理事長

たにやま 谷山 哲浩 てつひろ

目次 contents

- 01 福祉と介護、福祉と医療のたすき掛け
谷山哲浩理事長
- 02 【職員研修特集】
03 全体職員研修
福祉サービスのスキルとモラルを磨く「福祉人財人間力向上研修」
新人職員・集合研修
「基礎社会人研修・障害基礎研修・虐待防止研修」
- 04 【ご寄付のお礼】
マスクやアルコール消毒液をいただきました！
杉並区社会福祉協議会様・京セラ株式会社様
地域の子ども食堂や福祉団体に、食パンを無償提供
パン工房クブク・ぶくぶく食麵屋
東京消防庁より感謝状
法人見学ツアーについて

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。
「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。
年会費 1口5千円(何口でも可)
郵便振り込み 0011077128992
(間) 33027346 事務局 山本まで

日頃は、社会福祉法人いたるセンターに多大なるご支援ご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで、9月15日現在、新型コロナウイルス感染症拡大下のなか、当法人ではご利用者様および職員についても感染者は1名も出ておらず、ありがたく思っています。

これもひとえに、健康管理と衛生管理、感染予防を徹底して行ってきた職員およびご利用者様、保護者の皆様のご努力によるもので、心から感謝申し上げます。

先日、私は高齢者に福祉サービスを提供する某社会福祉法人に招かれ、講演を行った際、さまざまなお話を伺ってきました。特別養護老人ホームで、新型コロナウイルス感染症の罹患者が発生した影響を受け、運営的にも大きな打撃を受けたそうです。ウイズ・コロナ時代の福祉施設運営の難しさを痛感いたしました。

私たち社会福祉法人いたるセンターは、「自立と共生を求めて、個性が響きあう、しなやかな社会を目指す」を理念とし、「すべての多様な人々が、一人も取り残されない地域や社会をつくる」ことを目指しています。そ

の実現のために、「揺りかごから墓場までの、切れ目ない福祉サービス」を提供し、「どんなに障がい重くても、働くことで社会参加し、自立を促す」こと、「親子後も、住み慣れた地域で安全安心、健康に暮らせる」ことをミッションとしています。

こうした理念やミッションを達成するために、私たちが常日頃、課題としているのは、「さまざまな提供サービスを連携・協働させることで、よりニーズの高い支援・サポートを実現することです。それを、「福祉と介護、あるいは福祉と医療のたすき掛け」という言葉で示しています。具体的な取り組みとしては、親子後の障がい者の暮らしを支えるため、「高齢化・重度化に対応できるグループホーム(共同生活援助事業)」で暮らしを支えるとともに、「障がい重い方でも工賃が得られるような通所施設(生活介護・就労継続支援B型およびA型)」で賃金を得ていただき、障がい者年金と合わせて地域生活を送れるように支援することです。さらには、「24時間365日の安全安心心を担保する訪問看護ステーション」が、その専門性を活かした看護・医療的ケアを連携させることで、障がい者の方々の地域

生活はより豊かで充実したものになるでしょう。

こうした「福祉と介護、福祉と医療のたすき掛け」を、さらに「福祉と教育、福祉と農業のたすき掛け」へとつなげていくことが、「いたる式」地域包括ケアシステム 構想の原点となります。すでに、若年層の引きこもりの就労支援を無料で行う職業体験校や、不登校生に対応した広域通信制高校などの整備については、別法人で先行して推進しており、そのスキルや経験値を蓄えています。

しかし、社会福祉法人としての第一義は、国が指定した本来的な福祉サービスを継続的に、安定して提供することです。急速な事業拡大によって、職員に過度な負担をかけることは、ご利用者様への支援を損なうことにもなりかねません。

アフター・コロナ時代にあっても、その脅威に屈することなく、法人と職員が一丸となり、ご利用者様とご家族の皆様にご満足いただけるサービスをお届けするため、邁進してまいります。

今後とも、社会福祉法人いたるセンターに、変わらぬご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



職員研修特集 I

全体職員研修

福祉サービスのスキルとモラルを磨く 「福祉人財人間力向上研修」

社会福祉法人いたるセンターで毎年4回開催される総合職員研修で、昨年度からスタートした「福祉人財人間力向上研修」。介護や支援の技術スキル、接遇マナーなどのソーシャルスキルの土台になるのは「人間力」です。「人間」として、「組織人」として、または「職業人」として、人間力を磨くことで、生きる上での心構えである「土台」をしっかりと作り上げる研修です。講師は、社会保険労務士法人「ヒューマンスキルコンサルティング」の代表である林正人氏。これまで多くの介護職や医療職、保育職に就く方々が、この研修を受講しています。

この研修は全6回で行われ、「福祉・医療の現場ではたらくことの意味」、「福祉・医療サービスの質を高める人間力とは」、「福祉・医療の現場で具体的に何を实践すればいいのか」、「福祉・医療現場で必要な人間力の4つの要素」、「研修で気づいた



全体職員研修にて、第1回人間力向上研修を受講する職員たち



第3回人間力向上研修は、リモートで開催

こと現場が続けていくためのコツ」について講義が構成されており、第1回と第2回を2月、第3回を8月に受講しました。

第1回では、自らの人生の経営者として目的を持ち、自分が一番努力した志事(しごと)を天職としていくこと、第2回では、人間力は人間性と形(表情・態度・所作・言葉・行動)でできていること、素晴らしい心があっても、それを形にして表現できなければ伝わらない。まずは「あいさつ(相手の存在を認めて心を通い合わせる行為)」を徹底することで、職場や組織が大きく変わることで、重要な形である「言葉」と「笑顔」について、内なる言葉を肯定的に変えること、笑顔はコミュニケーションのための自己表現であること、などを学んできました。(第4回から第6回の研修については、各事業部で開催されます)

「世の中には、幸せなことも不幸なことも存在せず、そう思う心だけが存在する」という言葉に感銘を受けた。

凡事徹底が大切だと、あらためて気づかれました。

この仕事を天職だと思っているので、自分がいま置かれている場所で、小さくても花を咲かせることができるよう、日々働いていきたいと思いました。

あいさつは、個人・法人・施設の第一印象になります。スタッフがきちんとあいさつできれば、素敵な施設になると思う

自分の気持ち次第で働き方は変えることができるのだ、と感じました。日々、意識して人間力を高めていきたいと思っています。

仕事への取り組み方ひとつで人生が変わるという言葉に、何を目的にして働いているのかを考え、良い人生にしたいと思った。

人間性はなかなか変えられないが、カタチ(言葉・行動・表情)はすぐに変えられる。明日から「自らあいさつ」「笑顔で元気にあいさつ」を実践し、職場を変えていきたい。

あいさつひとつで気分や空気が変わると思うので、今日からでも実践していきます。

当たり前のことを当たり前にする難しさ、相手が喜ぶことなど、日常のなかで意識していきたい。

ご利用者様やご家族の皆様にも、積極的にあいさつし、良好な人間関係を構築できれば、と感じました。

介護・支援の基本は人間力だと思う。高齢者・障がい者は社会的な弱者かもしれないが、一人の対等な人間として向き合う私達の人間力が問われていると思う。

「働く」より「傍楽」自分になります。そう思うだけで義務感がなくなり、気持ちりが明るくなります。

はたらくという言葉は、傍(はた)を楽(らく)にするという解説が印象的でした。グループワークでは、この言葉には自分も楽にする、という考え方もあることを知り、心の持ち様で苦しくも楽しくも変わること気づけました。

アラスの言葉を発する人や笑顔が素敵な人は、自然と人が集まってくると思う。そのような人になれるように努力したい。

「不平不満」より「感謝」というフレーズが印象的でした。考え方を換えれば、生み出される結果が大きく変わると思いました。

受講した職員感想(抜粋)



職員研修特集 II

新卒職員研修

「基礎社会人研修・ 障害基礎研修・虐待防止研修」



代々木オリンピックセンターでの吉田氏の講義。
8名の新卒職員が参加中

社会福祉法人いたるセンターでは、新たに入職した新卒職員を対象に集合研修を行っています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、基礎社会人研修（リモート研修）を6月15日～17日の3日間、集合研修（代々木オリンピックセンター）を8月31日～9月4日の5日間、障害基礎研修・虐待防止研修（すまいる高井戸）を9月11日に行いました。

今年度の研修対象者は8名で、仮配属を経て、阿佐谷福祉工房、目黒本町福祉工房、イタル成城（生活介護・バンブル）、グループホーム事業部クローバーに正式に配属されています。基礎社会人研

修と集合研修では、社会人としてのマナーや日常の基本、自己寛知、コミュニケーションやチーム・ビルディングなどについて学びました。講師は、元法人職員で現在は株式会社エス・イー・アイ代表の吉田省三氏にお務めいただきました。さらに、障害基礎研修と虐待防止研修については、障害者地域相談支援センター・すまいる高井戸所長の春山陽子氏に担当いただき、主に虐待防止についての講義とピア相談員（障がいを持つ当事者自身がお互いに平等な立場で話を聞き合い、きめ細かなサポートによって、地域での自立生活を実現する手助けを行う）2名のお話を伺い、障がい者支援の基本を学びました。



SDGsのカードゲーム研修、社会的価値のある地球規模の施策から、社会福祉を考えます

ピア相談員に関してはほぼ知識がなかったのですが、当事者であることの強みを感じました。障がい者のモ/サシを障がい者で測ってもいい、という言葉にはとても共感でき、健常者としての常識と障がい者としての常識に差があることや認識の違いを改めて理解し、受容していくことの大切さを考えさせられました。

自分の中に無意識のうちに作った枠組みを、どれだけ柔らかくできるかが今後の課題となりました。この枠組みが強固だと、固定概念を当たり前、当然、常識と捉えてしまい、そこから抜け出すことに強い拒否を覚え、反発してしまうのだと考えられます。

今回の5日間の研修を通して、明確な目標設定の大切さを学びました。日常生活、日常業務の中で自分なりの明確な目標設定をすることで、そこに到達するためのルートも明確に見えることが分かりました。

本日の研修では「ピア相談員の重要性と可能性」を感じました。実際にピア相談員のお話を伺い、ピア相談員の強みに「同じような経験をしていること」や「同じ当事者であること」があり、共感ができる部分が多いということを知りました。自身にできることは「当事者の方の意見を聞く機会を多く持つこと」であり、多くの当事者の方と出会い、様々な困難があることを知るという体験をしていきたいと思ひます。

この研修を通して、自分で思っていた自身の性格や雰囲気、実はコミュニケーションを行う上で「強み」として活かせること、多くの人とのチーム意識がなければ、仕事は上手く進まないことに気付くことができました。

5日間の研修で学んだことを活かせるよう、自分の感じたことや思ったことを具体的に伝えるよう意識しました。伝える相手を意識してみて、以前よりも自信が持てるようになったと感じました。とても充実した新人研修でした。

私はこの仕事をしていて、支援員が一番気を付けなければならぬことは「虐待」だと思います。事例検討をやり、改めて虐待とは何かをもう一度考えなければならぬと感じました。私自身が虐待をしないことはもちろんですが、虐待に気が付いているのにそのままにしておくことも、虐待をしていることになるので、絶対に見逃さないようにしようと思ひます。

私は今回この研修を受けて、自分の弱みと改めて向き合うことができたと感じています。普段なかなか自己分析をする機会がないので、良い機会になりました。コミュニケーションにおける自分の短所と向き合いながら、これから仕事に取り組んでいきたいと思ひます。

職場では受け身の姿勢が多かったのですが、研修を通して積極的に発言でき、積極的にセッションに参加できるようになりました。同じ職場で働くスタッフと連携を深め、今後活かしていきたいと思ひます。

受講した職員の感想（抜粋）

ご寄付のお礼

マスクやアルコール消毒液をいただきました！

杉並区社会福祉協議会様・京セラ株式会社様

社会福祉法人杉並区社会福祉協議会・地域支援課・地域福祉推進係様より、地域の皆様から社会貢献のために有効活用してほしいという、地域



京セラ株式会社様より、アルコール消毒液&マスクをご寄付いただきました

の皆様から提供されたマスクを、ご寄付いただきました。ハンドメイドのかわいいマスク等もあり、早速、グループホームのご利用者様が着用させていただきました。また、アミーバ経営の指導でお世話になってる京セラ株式会社からは、アル



杉並区社会福祉協議会様より、大量のマスクをご寄付いただきました



グループホームのご利用者様が、ハンドメイドのマスクを着用中

アルコール消毒液とマスクをご寄付いただきました。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

地域の子ども食堂や福祉団体に、食パンを無償提供

パン工房ブクブク・ぶくぶく食麺麴

社会福祉法人いたるセンターの就労継続支援A型事業

残った売れ残り商品の有効活用を模索し、地域の子ども食堂や福祉団

所「パン工房ブクブク」は、三鷹の高級食パン専門店「ぶくぶく食麺麴」に食パンを卸しています。「ぶくぶく食麺麴」では、賞味期限が



も食堂や福祉団体への寄付をスタート。新型コロナウイルス拡大にともなう家庭や貧困の問題に加え、食品廃棄によるゴミやフードロス問題の解決に努めています。



多くの地域の社会貢献活動を行う団体に、パン工房ブクブクの食パンが役立てられます

法人見学ツアーについて

※現在、新型コロナウイルス感染症拡大にともない、ツアー日程が流動的になっています。ご希望・ご参加・お問い合わせについては、法人本部・採用担当：山本義彦までご連絡をお願いいたします。

電話：03-3392-7346
採用担当：山本義彦・樋口まで



いたる広報委員

発行責任者= 谷山 哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: http://www.itarucenter.com/
発行日/2020年10月1日

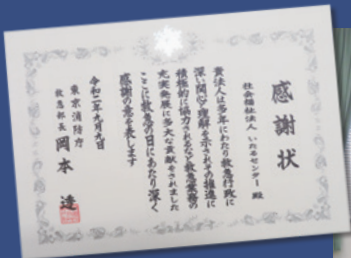
ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。

いたる広報委員まで。



救急業務協力者として、東京消防庁・救急部長より感謝状

9月9日（救急の日）、荻窪消防署において、社会福祉法人いたるセンターが救急業務協力者として表彰されました。当法人では、定期的に「救命講習」を全体職員研修として実施し、職員は救命技能認定証を保持しています。こうした救急業務への実績が認められ、今回の表彰となりました。今後も、地域福祉の一環として、当講習の受講を継続していきたいと思っております。



令和2年度 救急業務協力者表彰式



荻窪消防署長より感謝状を伝達される谷山哲浩理事長

